

第152期

中間報告書

2023年4月1日から2023年9月30日まで



東京インキ株式会社



代表取締役社長

堀川 聡

—— 企業理念 ——

暮らしを彩る、
暮らしに役立つものづくりで、
社会に貢献する。

—— 目指すべき企業像 ——

色彩を軸に、
市場が求める価値をお客様と共に創造、
実現し続ける企業。

平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2023年4月1日から2023年9月30日に至る当社グループの第152期中間報告書をお届けいたしますので、ご高覧くださいようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

■事業の経過およびその成果

当中間連結累計期間（2023年4月1日～2023年9月30日）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが第5類に移行したことにより、社会経済活動正常化への動きが一段と進み、企業業績・個人消費ともに緩やかな回復基調が継続されました。一方で、原材料価格の高止まり、円安とエネルギーコスト上昇等による物価高は依然として続いており、今後もウクライナ情勢の長期化や世界的な金融引き締めによる影響が懸念され、景気の先行きは依然不透明な状況が継続しております。

このような状況の中、当社グループは、競争力強化と顧客満足の向上および事業領域の拡大を進めたことに加え、製品の販売価格改定が一定程度進捗したことにより、売上高は前年同期比で増加いたしました。また、営業利益は売上高が増加したことに加え、さまざまなコスト削減活動を実施した結果、同様に増加いたしました。

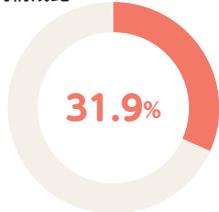
この結果、当中間連結累計期間の業績は、売上高が212億6千7百万円で前年同期比5億2千2百万円の増収（2.5%増）、営業利益は2億5千3百万円で前年同期比3億6千3百万円の増益（前年同期は1億9百万円の営業損失）、経常利益は円安による為替評価増等により4億9千9百万円で前年同期比3億5千1百万円の増益（239.2%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は3億8千3百万円で前年同期比2億6千9百万円の増益（236.2%増）となりました。

今後も日本経済の緩やかな回復基調は継続すると見込んでおりますが、原油価格や為替の動向等による当社グループの業績への影響が不透明な状況であるため、引き続き市況を注視しながら対応してまいります。

セグメント別情報

インキ事業

■売上高構成比



売上高

67億7千9百万円 (前年同期比1.9%増)



セグメント利益

1千6百万円 (前年同期比なし)



オフセットインキおよび印刷用材料は、産業構造の変化に伴う市場縮小が継続する中、行動制限解除に伴い各種イベント等が増加したことで、商業印刷において需要回復が見られました。そのような状況下、原材料価格およびエネルギーコストの上昇に対して製品販売価格改定が一定程度進捗したことにより、前年同期に比べ売上高は増加いたしました。また、売上高の増加に加え、前期末に実施した固定資産の減損処理に伴う減価償却費の減少等により、利益は改善いたしました。

グラビアインキは、新規顧客の開拓および製品販売価格改定が進捗したものの、物価高に伴う消費意欲低下の影響等により、売上高は前年同期並みになりました。また、環境に配慮した製品や高利益率製品である機能性インキが伸長したことで、利益は改善いたしました。

インクジェットインキは、欧米向け受託製品の需要が悪化していた前年同期に比べ若干の回復が見られたものの、建材用途等の自社製品が低

調に推移したこと等により、売上高は前年同期並みになりました。また、販売構成差により、利益は減少いたしました。

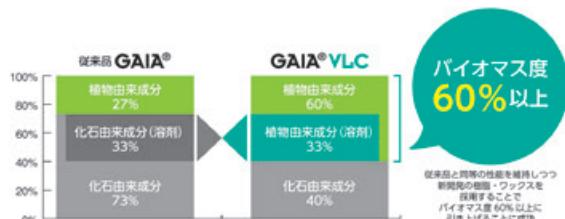
この結果、インキ事業の当中間連結累計期間の業績は、前年同期に比べ増収となり、利益は損失を計上した前年同期から黒字転換いたしました。

今後のインキ事業につきまして、オフセットインキは、産業構造の変化に伴う市場縮小が今後も継続することが考えられますので、製品開発および重点顧客への販売活動を強化し、今後更なる事業構造改革に努めてまいります。グラビアインキは軟包装分野の需要が堅調に推移し、インクジェットインキは徐々に需要が回復し、中長期的には産業用途の需要が今後も拡大することが見込まれますので、製品開発および販売活動を強化してまいります。また、事業全体を通じて収益力向上に向けて製品ポートフォリオの再構築を進めてまいります。

【サステナビリティ関連取り組み事例】

◆高バイオマスオフ輪インキ GAIA® VLC

従来品と同等の性能を維持しつつ、新開発の樹脂・ワックスを採用することで、インキ成分中のバイオマス度を60%以上に引き上げたオフ輪インキとなります。また、植物由来溶剤によりお客様における印刷乾燥工程時に排出する石油由来CO₂を限りなくゼロにすることに貢献いたします。



◆環境調和型グラビアインキ ライスインキ

表刷り用	PULPTECC - パルプテック -
ラミネート用	LAMITECC - ラミテック -

ライスインキマーク
バイオマスマーク認定
印刷物にマークの表示が可能です



※PAT取得済

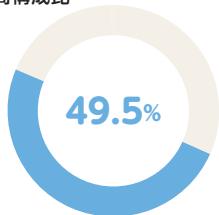
国産バイオマス原材料である米ぬかから石油の非食用部分を利用した環境調和型グラビアインキとなります。

従来のインキと同等の印刷適性を有しているため、通常通り印刷が可能であり、使用時のCO₂排出量抑制および石化資源使用削減に貢献いたします。



化成品事業

■売上高構成比



売上高

105億2千8百万円 (前年同期比3.7%増)



セグメント利益

1億1千8百万円 (前年同期比6.6%減)



自動車用マスターバッチおよび樹脂コンパウンドは、半導体不足の緩和に伴う国内自動車生産台数増加の影響が継続したことにより、前年同期に比べ売上高は大きく増加いたしました。

包装材・容器用マスターバッチは、物価高に伴う消費意欲低下の影響および環境対応の影響等により、前年同期に比べ売上高は減少いたしました。

この結果、化成品事業の当中間連結累計期間の業績は、原材料価格およびエネルギーコストの上昇に対して製品販売価格改定が一定程度進捗したことにより、前年同期に比べ増収となりました。一方、タイ国連結子会社が好調であったものの、包装材・容器用マスターバッチの減収影響が大きく、減益となりました。

今後の化成品事業につきまして、自動車用マスターバッチおよび樹脂コンパウンドは、国内自動車生産回復の継続により需要が堅調に推移することが見込まれますので、製品開発および販売活動を強化してまいります。包装材・容器用マスターバッチは、環境対応の加速化による市場縮小の継続が考えられますが、環境に配慮した製品需要の高まりが期待できますので、対応した製品開発および販売活動を強化してまいります。また、事業全体を通じてサーキュラーエコミーの実現に向けた取り組みを進めてまいります。

【サステナビリティ関連取り組み事例】

◆リキッドカラー HiFormer®

従来品であるペレット状のマスターバッチは高熱下で加工するため、製造時の使用エネルギーが大きくなりますが、液状マスターバッチは高熱下での加工を必要としないため、製造時の使用エネルギーを大幅に低減できます。

着色成分が従来品よりも高濃度で処方されているため、成形加工時の添加量を少なくすることができ、結果的に輸送コスト低減に繋がるとともに、液体であることから樹脂ペレットに拡散しやすく、色むら、ショットプレなどの使用時の不具合低減にも貢献いたします。

専用の供給制御装置を使用することで、液体同士が接触しないため、切替時の清掃が不要になり、ロスの低減にも繋がります。



(注) HiFormer®はAVIENT社の登録商標です。

加工品事業

■売上高構成比



売上高

39億1千5百万円(前年同期比0.5%増)



セグメント利益

2億3千8百万円(前年同期比35.0%増)



ネトロン®(注)は、一部の軟包装用途が低調に推移したものの、工業材料である水処理用資材の輸出需要が引き続き堅調に推移した結果、売上高は前年同期並みになりました。一方、原材料価格およびエネルギーコストの上昇に対して製品販売価格改定が十分ではなく、利益は減少いたしました。

一軸延伸フィルムは、ダンボール用途が低調であったものの、食品包装用途が堅調に推移いたしました。また、原材料価格およびエネルギーコストの上昇に対して製品価格改定が進捗したことにより、前年同期に比べ売上高は増加いたしました。利益は前年同期並みになりました。

土木資材は、昨年発生した豪雨災害の復興需要の影響等により、防災・減災用途に使用されるジオセル工法の採用が増加したことで、前年同期に比べ売上高および利益ともに増加いたしました。

農業資材は、燃油価格上昇の影響により保温資材等の高機能製品が好調でありましたが、国内農業における産業構造の変化に伴う市場縮小に

より汎用製品の需要が低迷した影響が大きく、前年同期に比べ売上高は減少いたしました。一方、高利益率製品の比率が向上したことにより、利益は前年同期並みになりました。

この結果、加工品事業の当中間連結累計期間の業績は、前年同期に比べ増収となり、高利益率製品比率の向上等により増益となりました。

今後の加工品事業につきまして、ネトロン®の水処理用資材は、市場拡大の継続により需要の高まりが見込まれ、土木資材は、多発している豪雨等の災害に対応するため国が「国土強靱化計画」を推進していることから、防災・減災用途製品の需要の高まりが見込まれますので、生産能力、製品開発および販売活動を強化してまいります。包装資材や農業資材は、環境対応の加速化および産業構造の変化に伴う市場縮小の継続が考えられますが、環境に配慮した製品需要の高まりが期待できますので、対応した製品開発および販売活動を強化してまいります。

(注)ネトロン®は三井化学株式会社の登録商標です。

【サステナビリティ関連取り組み事例】

◆ジオセル(グラウンドセル/テラセル)のり面保護工法

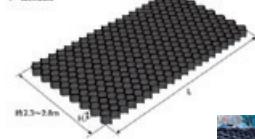
ジオセルはプラスチックシートを立体形成した、ハニカム状土壌安定枠となります。

ジオセルをのり面に設置し、中詰材を充填することで、のり面の浸食対策と緑化の両立が可能になります。

コンクリートを使用する工法に比べ、軽量であるため搬送の負荷が軽減でき、CO₂排出の低減に貢献、施工性にも優れております。

集中豪雨などの影響により不安定になっているのり面の復旧に貢献いたします。

新開田



ジオセル(グラウンドセル/テラセル)



のり面施工状況



完成後緑化状況

セグメント別情報

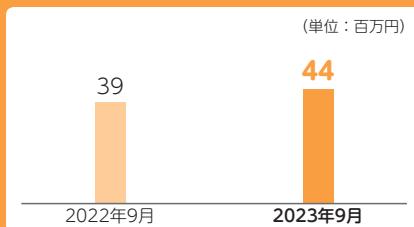
不動産賃貸事業

売上高構成比



売上高

4千4百万円 (前年同期比12.3%増)



セグメント利益

2千7百万円 (前年同期比29.1%増)



不動産賃貸事業は、賃貸戸建て住宅「パレットパークタウン」および本社ビル賃貸オフィスの稼働が堅調に推移いたしました。

この結果、不動産賃貸事業の当中間連結累計期間の業績は、前年同期に比べ増収増益となりました。



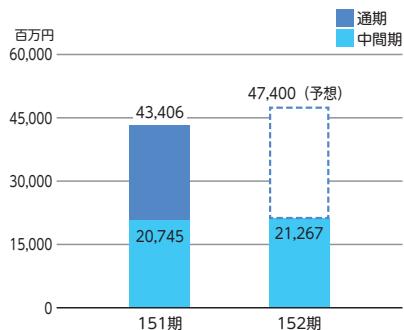
賃貸戸建て住宅「パレットパークタウン」



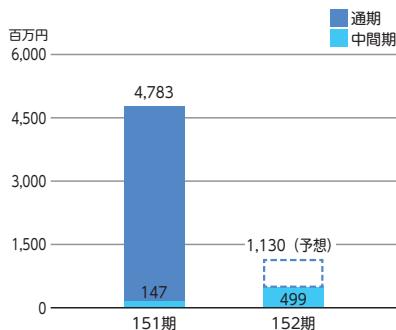
TIC王子ビル

財務ハイライト

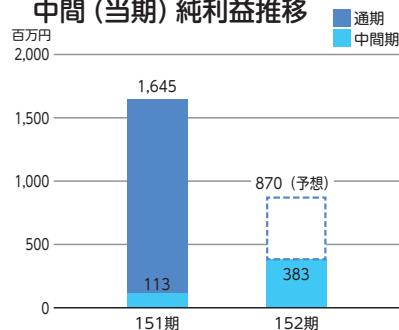
■ 連結売上高推移



■ 連結経常利益推移



■ 連結親会社株主に帰属する中間(当期)純利益推移



(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 第152期(通期)につきましては、2023年11月に発表した業績予想値であります。

TOPICS 2023年12月10日、東京インキは創立100周年を迎えます。

当社は1923年に印刷インキメーカーとして創業し、培ってきた技術をインキ以外の領域にも活用、進化させることで、今日のインキ事業、化成品事業、加工品事業の3事業を軸とした色彩総合化学メーカーとして、幅広い分野で社会に貢献する企業となりました。

当社は2023年12月に創立100周年を迎えますが、未来へ向けてさらなる発展を遂げるためには、今まで培ってきた「伝える」「彩る」技術を基盤としつつ、環境・社会問題解決に向けた「守る」製品を社会に提供し続けることが大切であると考えます。

次の100年へ向けて、当社は日々新たな挑戦を続けます。当社を支えていただいたすべての方々への感謝の意を表するとともに、今後とも一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

これからも、彩る世界をあなたと共に



100周年キャッチコピーに込めた想い

彩り豊かさを身近に感じて欲しいという想いを込めました。

100周年ロゴに込めた想い

「100」の1を赤丸で人に見立て、円の交わる点と点をつなげることで想いが人と人（点と点）とをつなげてきたという意味を込めました。また、その線の角度も右肩上がりであることから、「上昇志向」も意味します。さらに、赤には「情熱」という意味があります。これは脈々と受け継がれてきた技術者（社員）の魂を表しています。

創立100周年記念広告を掲載しております

2023年9月から12月の間、創立100周年記念広告を全国各地に掲載しております。12月は東京駅や王子駅等に展開しております。詳細な掲載場所や期間については、下記創立100周年記念サイトをご確認ください。



大阪駅に掲載された記念広告



名古屋駅に掲載された記念広告



大宮駅に掲載された記念広告

創立100周年記念サイトを公開しております

2022年12月より、創立100周年を記念したホームページを公開しております。当社の社史や記念モザイクアート等を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

創立100周年記念サイト ▶ <https://www.tokyoink.co.jp/100th/>



公式X（旧Twitter）アカウントを開設しました

2023年5月より、当社公式X（旧Twitter）アカウントの運用を開始しました。当社のIRに関する情報等もこちらで発信いたしますので、是非フォローをお願いいたします。



会社情報

▶ 会社概要 (2023年9月30日現在)

会社名	東京インキ株式会社 TOKYO PRINTING INK MFG.CO.,LTD.
資本金	32億4,612.5万円
従業員数	566名
創業年	大正12年(1923年)12月
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人
インターネット/ホームページアドレス	https://www.tokyoink.co.jp/

▶ 子会社 (2023年9月30日現在)

林インキ製造株式会社	東京都足立区
荒川塗料工業株式会社	東京都北区
英泉ケミカル株式会社	埼玉県比企郡嵐山町
ハヤシ化成工業株式会社	千葉県野田市の
トーイン加工株式会社	宮崎県都城市
東洋整機樹脂加工株式会社	愛知県名古屋市の
東京インキ株式会社 U.S.A.	米国カリフォルニア州アーバイン市の
東京インキ(タイ)株式会社	タイ王国バンコクの
東京油墨貿易(上海)有限公司	中華人民共和国上海市

▶ 役員 (2023年9月30日現在)

取締役会長	大橋 淳 男
代表取締役社長・社長執行役員	堀川 聡 男 業務全般統括、社長室、監査部、品質保証室担当
取締役・専務執行役員	榎本 公 裕 社長補佐兼管理部門担当 兼荒川塗料工業株代表取締役社長
取締役・常務執行役員	高松 典 助 営業部門長兼市場開発部長
取締役・常務執行役員	浦田 浩 之 生産・技術部門長 兼第2生産・技術本部長
取締役	田 地 司 社外取締役
取締役	小栗 道 乃 社外取締役
常勤監査役	伊東 義 人 社外監査役
常勤監査役	富井 徹 也 社外監査役
監査役	小林 俊 哉 社外監査役
上席執行役員	家坂 正 史 営業部門加工品営業本部長
執行役員	出口 昭 仁 営業部門インキ営業本部長
執行役員	太田 聖 也 営業部門化成品営業本部長
執行役員	棚 澤 典 孝 生産・技術部門第1生産・技術本部長 兼第2製造部長
執行役員	大田 和 啓 之 生産・技術部門開発本部長
執行役員	中村 真 次 管理部門長兼理財部長
執行役員	鹿野 昌 和 社長室長
執行役員	佐々木 善 則 東京インキ(タイ)株取締役社長

▶ 株主優待のご案内



当社は、毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株(1単元)以上保有の株主様に1,000円分のオリジナルクオカードをお送りいたします。また、長期保有株主優待制度として、300株以上かつ3年以上保有の株主様にさらに1,000円分のオリジナルクオカードをお送りいたします。

▶ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する日

公告の方法 日本経済新聞に掲載
単元株式数 100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)
受付時間 平日 9:00~17:00

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
証券会社に口座を開設されている株主様は、口座のある証券会社宛にお申出ください。
なお、証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
上場市場 東京証券取引所 スタンダード市場 証券コード: 4635

株主の皆さまの声をお聞かせください



当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスキー入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー

スマートフォンからカメラ機能でQRコードを読み取り
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社アロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」 ☒ koekiku@pronexus.co.jp